

JRC 蘇生ガイドライン 2020EIT に準拠し脳主幹動脈閉塞に対応した群馬 PSLS コース改訂の試み

谷崎 義生¹⁾³⁾ 松本 正弘²⁾³⁾

- 1) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 救急部
- 2) 公立館林厚生病院 脳神経外科
- 3) 群馬県 MC 協議会検証部会検証医

群馬県では、2008 年より地域メディカルコントロール（MC）協議会主催で群馬 PSLS の開催を継続し、受講者数は本学会への登録者数 2115 名と全国最多の人数であった。2019 年には、脳梗塞治療法の進歩と脳卒中・循環器病対策基本法に対応したコースの改定を実施した。今回は、「脳卒中が疑われる傷病者に対する身体観察 7 項目」や JRC 蘇生ガイドライン 2020 の EIT に対応したコース改定を群馬 MC 協議会として取り組み開始したので、その概要を報告する。

1. 事前配布資料の elearning 化、2. 半日を 5 時限に分けて実施していた「マストラーニング」から、各次元単位に分割し数週間かけて実施する「スペースラーニング」様に資料を変更する、3. 指導救命士のリーダーシップトレーニングを計画する、4. 指導救命士を核として、文脈学習・反復学習・マスタリーラーニングなどを実現するために、所属部署でコースを実施可能な資料を作成する、など資料作成と体制整備を行う。この取り組みは COVID-19 対策としての有効性が強く示唆されるが、群馬 MC 協議会としての取り組みを開始したばかりのため、初期段階での計画概要と問題点について報告する。